

「課題名 テイコプラニンノモグラムの有用性の検討」

○ 研究の意義・目的

重症感染症において、テイコプラニンを目標とする血中濃度に到達させる投与設計は非常に重要となります。そこで、血中濃度に影響を及ぼす因子や初期の投与条件との関連を調べ、より適正な投与設計（ノモグラム）を作成しました。今回の研究ではノモグラムの有用性、安全性を検討します。

○ 研究対象者

2019年1月1日から2024年3月31日までに、広島大学病院に入院し、テイコプラニンによる治療を受けられた方を対象とします。

○ 研究方法

本研究は、全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。

カルテから転記する内容は年齢、体重、性別、血液検査（血清クレアチニン、eGFR、ALB等）、治療内容、テイコプラニンの投与量、テイコプラニンの血中濃度、目標濃度域への到達率、副作用の発現率です。研究は広島大学病院薬剤部のみで行います。

（個人が特定出来る状態では解析に用いません）

○ 試料・情報の管理責任者

広島大学病院 薬剤部 教授 松尾 裕彰

○ 研究期間 委員会承認後～2026年3月31日

○ 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

*研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

.....

お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5579

広島大学 薬剤部 教授 松尾 裕彰（研究責任者）

薬剤師 片岡 達夫（研究担当者）